

卒業生を訪ねて

シリーズNo.1

今回インタビューする卒業生の皆さん

旭電機化成株式会社

専務取締役 原 守男さん (28期)

竹谷 政義さん (56期)

原 壮太さん (59期)



八尾高校の懇談週間期間の11月17日(金)秋晴れの日、「旭電機化成株式会社」に原守男さん(八尾高校28期 昭和51年卒)を訪問しました。

この会社は中小企業ではありますが、その機動力を活かし数々の製品を市場に提供しています。プラスチックの成形が基本でその開発と販売に力をいれているとのこと。デザインやパッケージに至るまでトータルで開発し、その上販売にも力を注いでいるあたり、本当に一企業として完結しているなあと感じ入りました。その開発事業も多岐に涉ります。



家庭用品から医療機器、食物関係の店舗計画まで、中小企業ならではの自由な発想と多様性を認める度量の広さに溢れていました。懐中電灯博物館も全国ではここだけと、ユニークな発想の展示室も社内にあつたりします。また大商大との連携や「となりの人間国宝」に認定され、話題に事欠かない会社です。

大学選択と就職活動

<大学は得意科目が決めての竹谷さん >

唯一好きだった科目が英語。たまたま進路指導室で自分の学力に合った大学を紹介され、京都外国語大学へ進学。得意な英語を生かして旅行代理店を希望した。ところが、リーマンショックの後の就職氷河期世代でなかなか採用決定しなかった矢先、お母様がたまたま原守男さんと出会い、この会社を紹介され、会社訪問、アルバイト経験を経て入社。今ではこの会社で働き、良かったと感じておられる様子。営業の仕事を任されている。営業活動の中で人間関係を構築していく楽しさに興味を持ち始めていると話してくれた。





<大企業よりベンチャー企業に興味を持った原壮太さん。>

「下宿を経験すべし」というお父様の方針で原壮太さんは、はじめ四国の大学を考えた、実際に部活動の休みを利用して四国を視察、その後友人と東京の大学も視察、検討の結果、東京理科大学へ進学をする。下宿をしながら猛勉強、東京大学大学院へ進学をする。既存の会社ではなく、新しい業態に興味があり無農薬野菜を農家から直接消費者へ届けるベンチャー企業に就職。販路開拓の仕事に3年間、東京新宿で従事した。その後、お父様の原守男さんの誘いがあり、今の会社へ転職をする。結婚もその時期で人生の節目でもあったそうです。

生物系が専門だったので、医療関係の商品開発などを現在手掛けておられる。

<モノづくりと会社経営に興味のあった原守男さん>

八尾高時代は部活動に明け暮れていた。受験はいろいろ受験科目を調べて得意な理科が比重の高い入試をしていた名古屋工業大学へ進学された。

就職活動の際は「四季報」を見ながら利益率の高い現在の「京セラ」に入社された。実家が会社を運営されていたこともあり、経営者としての面とモノづくりの面の両方兼ね備えた現在の旭電機株式会社へ移られ、現在専務取締役として会社をけん引されている。受験も就職活動も入念にご自身で調べ上げての選択が真骨頂かもしれません。



「人の縁」と「チャンス」をキャッチする準備

今回、3名の卒業生のインタビューで印象的だったのは「人の縁」というフレーズです。「家族の絆」「人の縁」が人生の岐路に立った時、方向を決める大きな要素になっていました。決断するのはあくまでも自分自身ですが、アドバイスを受け入れる「心の準備」がないとできません。

Serendipity(偶然に発見する能力) イギリスのニュートンは「りんごが木から落ちる」ことから地球がリングを引っ張っている着想、そして万有引力を発見したといわれます。日頃から物体の運動を考えていたからそのチャンスを逃さず目に留まったということだと思います。

人間関係においても同じことではないでしょうか。偶然と思われることを掴むか掴まないかは自分自身にあるのですから。